

科目名	国際情報論特殊研究	担当者	コンドウ 近藤 モトヒロ 大博	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>① デモクラシーと世論、情報・報道・メディアとの相互関係を考察する。</p> <p>② 看過されがちなメディアの種類・取材手段・属性(文化的・歴史的背景, 国籍など)による相違・特性を把握する。</p> <p>③ 情報・報道を、歴史的視点から検討し、デモクラシー研究を行い、メディア・リテラシーをも高める。</p> <p>④ IT化の進展, SNSの普及の世論, 情報・報道・メディア, デモクラシーへの影響を探究する。</p> <p>⑤ 諸外国との歴史認識についての相違の形成の根源を探る。</p> <p>⑥ 対外認識・外国に関する情報・報道における歪曲・捏造の形成原因とその影響を探る。</p> <p>⑦ 対外偏見・外国への憎悪意識形成にいたる過程を追う。</p> <p>⑧ 同様に、自国のイメージ形成における問題点を探る。</p>		
到達目標	<p>[一般目標(GIO)] デモクラシーの充実・確立に関しての今日的課題を把握する。 外国認識・歴史認識, 及びそれらに関連する機関(ジャーナリズムなど)に潜む問題を、歴史的に整理し、対外認識・自国イメージを形成するさい、陥りやすい陥穽を解明し、諸外国との対立を解消する方途を探る。</p> <p>[行動目標(SBOs)] 以下を考察する方法論を習得する。 メディアの発達・変化が世論をいかに動かしたか、動かすか。 グローバル化が世論・対外認識にいかん影響したか、影響するか。 IT化の進展, SNSの普及が世論, 情報・報道・メディア, デモクラシーにいかん影響したか、影響するか。 学問, 知識人, 世論, 政治とメディアのあり方, 及びそれぞれの関係。 日本の報道・評論と諸外国のそれらとの相違とその原因。 メディア・情報に内在する問題の歴史的な整理。 歴史認識・対外認識・自国イメージを形成するさいに陥りやすい陥穽。 メディアの方途。</p> <p>[準備学修項目と準備学修時間] 1篇のリポート作成に、基本教材・参考文献の読み込み, データの探索に25時間以上, manaba folioへの提出・再提出などに20時間以上, 計45時間以上を要します。</p>		
学修方略 (方法)	<p>[アクティブラーニングの有無・学修媒体等] manaba folioの全受講者用の掲示板機能を利用し、受講者と質疑し、その過程を受講者全員に公開し、その成果を共有する。</p> <p>[学修方略(LS)] リポート課題に沿って、教材や参考図書を読み込み、自らが問題点を抽出し、その問題を論ずるに必要な文献・資料を検索・整理し、それに対する考え方をリポートとしてまとめる。その過程で、疑問点などに関し、教員にメール, manaba folioなどで相談・質問する。教員から、適宜、メールなどにて伝達される情報・補助教材を活用する。</p>		
スケジュール	<p>前期: 教材1のリポート課題(1)の草稿は7月末, 課題(2)は8月末を目途に提出する。 いずれのリポートも9月課題提出締切日までに最終稿を提出すること。</p> <p>後期: 教材2のリポート課題(1)の草稿は11月中旬, 課題(2)は12月中旬を目途に提出する。 いずれのリポートも2020年1月課題提出締切日までに最終稿を提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	リポート	80%	リポート内容を、問題設定・論理的展開・歴史的展開・問題提起の面から検討し、全体の記載方法, 注・参考文献の適切性・記載方法, 最新の研究の反映や自らの研究分野との関連性などを評価する。
	平常評価	20%	スケジュールの遵守の度合, メールを送受信の状況, 質疑応答の内容などを勘案する。

履修者への要望	<p>恒常的に、外国に関する報道・評論、対外関係・国際関係、メディア・リテラシー、メディア産業関連の書物・記事・評論に接するように努めること。</p> <p>外国の新聞・雑誌・WEBを定期的に購読することが望ましい。</p> <p>そのおり、持つにいたった疑問・問題に関し、メールや manaba folio を活用し、積極的に教員と討論すること。</p> <p>レポートの題材・テーマは、自身の研究に資するように努めること。</p>
---------	---

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： ジョン・ダワー(三浦陽一ほか訳)</p> <p>教材名： 『敗北を抱きしめて』増補版上・下(岩波書店, 2012年)</p> <p style="text-align: center;">上 ISBN:978-4-00-024420-6 / 下 ISBN:978-4-00-024421-3 各2,700円+税</p> <p>1945年8月、日本人は、国土を焦土化した占領軍兵士たちを、鬼畜米英としていたはずの敵兵を、何故に、大歓迎したのか。何故に占領は円滑に進行したのだろうか。</p> <p>勝者による革命に、民衆はいかに呼応したのか。叙事詩としてアメリカを代表する歴史家が描いた戦後日本の民主改革。日本の民主主義・日本社会に伏在する問題点を剔抉する。</p>
参考図書	<p>アンドルー・ゴードン編(中村正則監訳)『歴史としての戦後日本』上・下(みすず書房, 2001年)</p> <p>上 ISBN:978-4-62-203679-1 2,900円+税 / 下 ISBN:978-4-62-203680-7 2,800円+税</p> <p>ジョン・ダワー(斎藤元一訳)『人種偏見』(TBSブリタニカ, 1987年) ISBN978-4-48-487135-6 2,796円+税</p>
履修上のポイント	<p>メディアそのものを対象とする前に、アメリカ人との文化的・歴史的背景、歴史認識の差異が、日米両国民の考え方や両国のメディアにいかなる影響を与えたのか、与えるのかを探究する。</p> <p>また、戦後史の底流に流れる日本人の精神構造に迫り、メディアの変質を分析する。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材を要約し、叙述せよ。</p> <p>留意点：長さは各自の裁量にまかせるが、5,000字程度が望ましい。</p> <p>著者が描いた時代の流れを把握し、著者が描いた通史を簡約化するように努めること。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材の問題提起を受け、自らが問題を設定し、考察・論述せよ。</p> <p>留意点：長さは各自の裁量にまかせるが、5,000字程度が望ましい。</p> <p>課題1をなるべく早くこなしした上で取りかかること。各自の研究に資するように問題設定をすること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： W.リップマン(掛川トミ子訳)</p> <p>教材名： 『世論』上・下(岩波文庫・岩波書店, 1987年)</p> <p style="text-align: center;">上 ISBN:978-4-00-342221-2 740円+税 / 下 ISBN:978-4-00-342222-9 900円+税</p> <p>世論研究における不朽の名作である。</p> <p>現実の環境と人間の行動の間にはいかなる関係があるのか。いかにして「ステレオタイプ」が形成され、それがいかに力を有するのか。</p> <p>世論研究に止まらず、デモクラシー研究に不可欠な著作である。</p>
参考図書	<p>前期の教材・参考図書をも含める。</p> <p>対外認識、パブリック・ディプロマシーに関する最新の研究を取り込むべく、かつ、各自の研究に資するようにすべく、教員と相談すること。</p>
履修上のポイント	<p>報道・世論・政府の関係について省察するよう努めること。特に世論の動向・変遷を第1次世界大戦後から現在にいたる国際政治の流れに位置付けるように努めること。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材を書評的に論評せよ。</p> <p>留意点：長さは各自の裁量にまかせるが、5,000字程度が望ましい。</p> <p>著者の提起する問題と現代が抱える問題との共通点を探ること。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材の問題提起を受け、自らが問題を設定し、考察・論述せよ。</p> <p>留意点：長さは各自の裁量にまかせるが、5,000字程度が望ましい。</p> <p>課題1をなるべく早くこなしした上で取りかかること。各自の研究に資するように問題設定をすること。</p>